

週間展望・回顧(ドル、ユーロ、円)

November 5, 2021

10月の米中インフレ率上昇に注目

- ◆ドル円、10月の米国と中国のインフレ高進懸念から底堅い展開か
- ◆10月米中消費者物価指数や次期FRB議長の人選にも要注目
- ◆ユーロドル、英国とEU及びフランスとの確執で軟調推移か

予想レンジ

ドル円 112.00-116.00 円
ユーロドル 1.1200-1.1700 ドル

11月8日週の展望

ドル円は、10月米消費者物価指数(CPI)の上昇が予想されており、インフレ高進が「一時的」ではなく、「持続的」となりつつある可能性が高まりつつあることで底堅い展開が予想される。

10日に発表される米10月のCPIの予想は前月比+0.5%で、9月の+0.4%から上昇。コアCPIの予想は前月比+0.3%で、9月の+0.2%からの上昇が見込まれている。3日の米連邦公開市場委員会(FOMC)声明ではテーパリングに関して、「11月と12月に購入を縮小した後には、毎月同様の資産購入減速が適切になる可能性が高いと委員会は判断するが、経済見通しの変化に応じて妥当だと判断される場合は、購入ペースを調整する用意がある」と表明された。インフレ高進が持続的になった場合、減額幅が拡大する可能性が高まることになる。

また、中国の10月のCPIは、8月が前年比+0.8%、9月が+0.7%と高止まりしており、エネルギー価格の高騰を背景に上昇が見込まれている。中国では、インフレ高進と景気低迷によるスタグフレーションへの警戒感が高まっており、リスク回避要因となっている。また、10日に中国恒大集団の利払いの猶予期間が終了することから、デフォルトの可能性にも警戒だろう。

更に、バイデン米大統領が次期FRB議長の人選を公表する予定であることにも注目。パウエルFRB議長は、昨年10月にトランプ前大統領が追加経済対策の協議を中止してNY株式市場が下落する前に投資信託を売却していたことが判明。上院での承認が難しくなる中、ハト派のブレイナードFRB理事が指名される可能性が高まっている。

また、毎年10月中旬に議会へ提出されている米財務省の「為替報告書」が公表された場合にも注意したい。米国の9月の貿易赤字が過去最大を記録し、中国や日本との貿易不均衡が拡大しているほか、米国と中国は第1段階通商合意の履行状況の検証と一部の未解決問題についての協議を開始している。イエレン米財務長官は、為替管理を止めない中国を念頭に「貿易面での優位性を得るため人為的に通貨価値を操作する試みに反対する」と述べていたが、先日、劉鶴中国副首相と電話会談を実施。為替問題が米中交渉の俎上に上がる警戒感が高まっている。

ユーロドルは、天然ガス価格の高騰を受けてインフレ高進が続く中、ユーロ圏9月の鉱工業生産と独11月ZEW景況指数に注目か。ユーロドルの上値は、ドイツの社会民主党主導の連立政権の組み合わせへの警戒感や英国と欧州連合との北アイルランドを巡る「ソーセージ戦争」、英仏間の漁業権問題「ホタテ戦争」などへの警戒感から限定的か。

11月1日週の回顧

ドル円は114.44円から113円半ばまで下落。FOMC声明で11月からのテーパリング開始が決定されたものの、FRB議長は利上げに慎重な姿勢を堅持した。WTI原油先物はサウジ増産観測で78ドル台へ下落。米10年債利回りは英金利の急低下などを受けて1.50%台まで低下した。ユーロドルは1.1617ドルから1.15ドル前半へ、ユーロ円も132.56円から131円付近まで下落した。(了)